

平成28年度地域包括支援センター事業評価
⑥ 五香松飛台地域包括支援センター

評価指標の定義

- 4: 大変よくできている
- 3: ある程度できている
- 2: あまりできていない
- 1: まったくできていない

松戸市
平成29年7月

1. 組織／運営体制

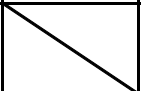
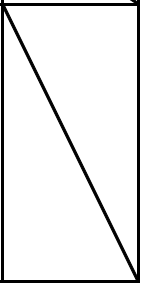
評価項目		回答欄	行政評価	主な好事例・課題	ヒアリング事項
①地域包括支援センター「事業計画」が適切に作成・実行されているか。		4	4	エ 平成27年度の事業評価の結果を踏まえて、評価の低い項目・課題を明らかにして、下記項目に関し、具体的な対策を4ページにまとめ、策定している。 1、組織・運営体制（職場内研修・個人情報保護・夜間対応件数） 2、総合相談支援（行事参加・社会資源把握） 3、権利擁護（警察、弁護士・消費者センターとの連携） 4、包括的継続的ケアマネジメント支援（指導・助言・同行訪問） 5、地域ケア会議 6、医療・介護連携（医師との連携） 7、介護予防ケアマネジメント 8、認知症高齢者支援（初期集中支援チーム、オレンジ協力員との連携） 9、松戸市指定事業（介護予防教室の充実） 10、好事例 11、他包括との比較	
評価の根拠	ア.「事業計画」に委託契約仕様書の内容は網羅されている／いない	いる			
	イ.「事業計画」を法人として決定している／いない	いる			
	ウ. 担当圏域やセンターが抱える課題を把握した上で、平成28年度の事業実施に当たっての重点業務を決めている／いない	いる			
	エ. ウが「いる」の場合、重点業務の具体的内容【自由記入】	前年度「医療介護連携」「認知症支援」「消費者被害の啓発」の項目の評価が低くH28年度の重点業務課題として共通認識を図る。			
	オ.「事業計画」の進捗状況のチェック及びチェックに基づく業務改善の具体的な実施方法【自由記入】	「事業計画」の進捗状況・・・前年度の活動内容や「仕様書」の内容を踏まえ年間計画や研修計画を立てチェックしている。「消費者被害の啓発」・・・消費者被害の普及啓発活動実施（5/28・9/23・10/24・11/4計107名）また、各町会の会議や社協主催の集い時に消費者被害のパンフレット等を配り説明した。「医療介護連携」・・・地域サポート医と定期的にカンファレンスを行う（4/1・5/6・6/3・7/8・9/2・10/7・11/4・2/3・3/3計9回延べ人数78名）また、多職種ネットワーク会のテーマとする。医師会主催の研修会等にも積極的に参加。「認知症支援」・・・認知症初期集中支援チームに2名の事例を挙げる・オレンジ協力員交流会2/23実施。また、H29年度認知症初期集中支援チームのモデル事業を協議の上、積極的に受けていく事とする。			
カ. その他【任意・自由記入】	前年度の評価実績を精査し「今後の課題と対策」としてまとめ、包括全体の意識付けと具体的な課題として取り組む事を法人としても承認される。				

評価項目		回答欄	行政評価	主な好事例・課題	ヒアリング事項
②担当する圏域における高齢者人口及び世帯の把握を行っているか。		4	4		
評価の根拠	ア. 担当する圏域の65歳以上の高齢者人口【時点・人数を記入】	H29年 3月 31 日現在 (9, 478)人			
	イ. 担当する圏域の65歳以上の独居世帯の数、高齢者世帯の65歳以上の高齢者数【時点・世帯数・人数を記入】	H29年 4月 1 日現在 独居世帯数(2, 184)世帯 65歳以上の高齢者世帯の高齢者数(5, 955)人			
	ウ. 担当する圏域の75歳以上の高齢者人口【時点・人数を記入】	H29年 4月 1 日現在 (4, 481)人			
	エ. 担当する圏域の75歳以上の独居世帯の数、高齢者世帯の75歳以上の高齢者数【時点・世帯数・人数を記入】	H29年 4月 1 日現在 独居世帯数(1, 276)世帯 75歳以上の高齢者世帯の高齢者数(3, 034)人			

評価項目		回答欄	行政評価	主な好事例・課題	ヒアリング事項
③担当する圏域における利用者のニーズの把握を行っているか。		4	4		
評価の根拠	ア. 実施しているニーズ把握の方法【自由記入】	○地域ケア会議で協議された課題のアンケートを町会長・民生委員・相談協力員の協力の元地域の方に配布し各ニーズの把握を図る。 1)無料送迎バスの具体的ニーズ 2)介護予防に関する具体的ニーズ 3)向こう3軒両隣の啓発活動		イ アンケート結果をグラフ化し、推進会議でわかりやすくまとめ、出席者すべてに結果をフィードバックしている。加えて、次年度の検討課題に結びつけている。 また、無料送迎バスに関しては、更に細かいアンケートを実施し、曜日や時間、場所についても再検討している。	イ 社会資源マップである「五香松飛台いきいき安心ブック」を現在作成中。
	イ. ニーズを基に実行した取組の具体例【自由記入】	○地域の方約200名のアンケート集計 1)無料送迎バスの希望停留所、送迎本数や日時をデータ化しH29年度の地域ケア会議時の継続課題とする。 2)介護予防のニーズや実態をデータ化しH29年度の地域ケア会議時に五香松飛台版ガイドブック(仮称)を作成し地区内・医療・介護事業所・社会資源のマップを作成する事になる。 3)「向こう3軒両隣」のフローチャートを作成し各自治会館・商店街・小学校・医療関係等地区内約33か所に設置させて頂く。			

評価項目		回答欄	行政評価	主な好事例・課題	ヒアリング事項
④個人情報保護の徹底を行っているか。		4	4	オ 個人情報保護取り扱いマニュアルを策定し、市のハンドブックに加え、厚生労働省の個人情報ガイドラインも整備し、いつでも閲覧できるようにしている。	
評価の根拠	ア. 個人情報保護マニュアルを整備し、職員全員が所持している／いない	いる			
	イ. 個人情報保護責任者を設けている／いない	いる			
	ウ. 個人情報の管理のために行っている具体的な方法 安全な保管場所(鍵・パスワード付)や管理の方法など【自由記入】	ケースの記録物に関しては鍵のかかる書庫に全て保管している。個人情報に関するもの(ケース以外にも地域の役員の名簿なども含む)も鍵のかかる場所に保管している。			
	エ. 個人情報の取得・開示についてのチェック項目を設け、案件ごとに確認している／いない	いる			
	オ. その他【任意・自由記入】	包括版の個人情報保護マニュアル・松戸市個人情報セキュリティハンドブックは個々の職員が保管。左記2点と厚労省の「福祉分野における個人情報に関するガイドライン」を冊子にし自由閲覧できるようにする。 全てのパソコンにパスワードロックを行っている。個人情報を記載している情報に関してはUSB等に保管していない。			

評価項目		回答欄	行政評価	主な好事例・課題	ヒアリング事項															
⑤利用者が利用しやすい相談体制が組まれているか。		4	4	キ 職員一人ひとりに法人から携帯電話を貸与。法人には、事前に当日の当番職員を報告している。	ア 昨年度の評価結果を踏まえ、名刺裏に夜間や緊急時の連絡先を追加している。															
評価の根拠	ア. 夜間窓口(連絡先)の整備・周知の方策【自由記入】	・相談者には夜間や緊急時の連絡先を明記した名刺やパンフレットを渡し説明している。 ・夜間休日等は法人に転送されるが、24時間365日包括職員に連絡を取ることができる体制は整っている。																		
	イ. 対応分類(訪問、面接、電話)別の夜間対応の件数(28年度1年間)【件数を記入】 ※17:00以降に対応した件数	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>本人又は親族</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>訪問</td> <td>10件 内(10件)</td> <td>0件)</td> </tr> <tr> <td>面接</td> <td>5件 内(5件)</td> <td>0件)</td> </tr> <tr> <td>電話</td> <td>230件 内(100件)</td> <td>130件)</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>245件 内(115件)</td> <td>130件)</td> </tr> </tbody> </table>				本人又は親族	その他	訪問	10件 内(10件)	0件)	面接	5件 内(5件)	0件)	電話	230件 内(100件)	130件)	合計	245件 内(115件)	130件)	
		本人又は親族	その他																	
	訪問	10件 内(10件)	0件)																	
	面接	5件 内(5件)	0件)																	
電話	230件 内(100件)	130件)																		
合計	245件 内(115件)	130件)																		
ウ. 土曜・休日窓口(連絡先)の整備・周知の方策【自由記入】	・相談者には休日や緊急時の連絡先を明記した名刺やパンフレットを渡し説明している。 ・地域の集まりや会議等ではパンフレット等を用い説明している。 ・夜間休日等は法人に転送されるが、24時間365日包括職員に連絡を取ることができる体制は整っている。																			
エ. 対応分類(訪問、面接、電話)別の土曜・休日対応の件数(28年度1年間)【件数を記入】 ※8:30-17:00に対応した件数	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>本人又は親族</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>訪問</td> <td>32件 内(27件)</td> <td>5件)</td> </tr> <tr> <td>面接</td> <td>15件 内(15件)</td> <td>0件)</td> </tr> <tr> <td>電話</td> <td>132件 内(48件)</td> <td>84件)</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>179件 内(90件)</td> <td>89件)</td> </tr> </tbody> </table>		本人又は親族	その他	訪問	32件 内(27件)	5件)	面接	15件 内(15件)	0件)	電話	132件 内(48件)	84件)	合計	179件 内(90件)	89件)				
	本人又は親族	その他																		
訪問	32件 内(27件)	5件)																		
面接	15件 内(15件)	0件)																		
電話	132件 内(48件)	84件)																		
合計	179件 内(90件)	89件)																		
※17:00以降に対応した件数	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>本人又は親族</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>訪問</td> <td>0件 内(0件)</td> <td>0件)</td> </tr> <tr> <td>面接</td> <td>0件 内(0件)</td> <td>0件)</td> </tr> <tr> <td>電話</td> <td>3件 内(3件)</td> <td>0件)</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>3件 内(3件)</td> <td>0件)</td> </tr> </tbody> </table>		本人又は親族	その他	訪問	0件 内(0件)	0件)	面接	0件 内(0件)	0件)	電話	3件 内(3件)	0件)	合計	3件 内(3件)	0件)				
	本人又は親族	その他																		
訪問	0件 内(0件)	0件)																		
面接	0件 内(0件)	0件)																		
電話	3件 内(3件)	0件)																		
合計	3件 内(3件)	0件)																		

評価項目	回答欄	行政評価	主な好事例・課題	ヒアリング事項			
才. 職員が、緊急時に連携できる医療機関・介護事業者等の各種施設の連絡先を携帯している／いない	いる						
カ. 地域包括支援センターのPRのために講じている具体的方策【自由記入】	<ul style="list-style-type: none"> ・地域ケア会議で町会長に呼びかけ回覧版で包括のパフレットや講演会資料・アンケート等の配布を行っている。 ・地域の行事や会議に積極的に参加し地域の信頼を得て地区全体の行事に来年度は包括ブースを出展する。地域からの依頼で講演会が増えている。(4/20・5/28・7/25・8/24/・9/18・10/16・12/21・3/18計9回) ・医療機関、介護事業所、各サロン、各自治会館、薬局、商店街、小学校等33か所に「向こう3軒両隣」の普及啓発チラシを設置してもらう。 						
キ. その他【任意・自由記入】	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急時連携先(医療・介護事業所等)は職員一人ひとり法人より、貸与されている携帯に入力してあるのですぐに連絡が取れる状態。 						

評価項目		回答欄	行政評価	主な好事例・課題	ヒアリング事項
⑥利用者の満足度向上のための適切な苦情対応体制を整備しているか。		4	4	カ 月一回のケース会議において、ケースの振り返りや終結の判断を実施。その際、死去等により終結となったケースについて、支援を依頼していた民生委員、相談協力員等に経過報告を行い、行き違いがないようにしている。	ア どこからを「苦情」とするのか迷うところであるが、包括内でおさまらない案件については、「苦情」として計上している。
評価の根拠	ア. 地域包括支援センターで受け付けた苦情受付件数と、そのうちセンター自体に対する苦情件数(28年度1年間)【件数を記入】	苦情受付件数 2件 (内センター自体の苦情 2件)			
	イ. 「28年度1年間に受けた苦情のうち最も困難な苦情」の解決にかかった時間及び解決のために主に連携した機関【時間及び機関を記入】	解決時間: 8 時間 連携機関: 高齢者支援課			
	ウ. 苦情対応窓口に関する情報(連絡先、受付時間等)を公開している/いない	いる			
	エ. ウが「いる」場合、公開している場所・方法【自由記入】	入口横相談ブースの壁に掲示			
	オ. 重大な苦情の内容及び対応内容を決定し、関係機関と共有している/いない	いる			
	カ. その他【任意・自由記入】	苦情の1件は日頃から懇意にしている高齢者支援連絡会の方からで、以前包括から依頼し独居高齢者の見守りを依頼したが、その方が亡くなった事を伝えず他の住人から聞いた事で連携が取れていないと苦情。苦情内容は正論なので真摯に受け止め謝罪。以後毎日の会議時や月一度のケース検討会において他界や転居等で終了するケースは記録を遡り協力を依頼した民生委員や高齢者支援連絡会の方々に報告をしていくチェック体制を作る。			

2. 人員体制

評価項目	回答欄	行政評価	主な好事例・課題	ヒアリング事項
①多様なニーズに対応できる知識・経験のある職員の確保・育成を行っているか。	3	3	オ 月1回ずつ、包括内研修、法人内研修を実施。法人内研修は1回30分程度	ア 市や受託法人のホームページに掲載するほか、新聞の折込広告、インターネット、個別に声かけをおこなった。三名の応募があったが、一名は面接前に辞退、残りの二名は、面接後の採用前に辞退される。
評価の根拠	ア. 3職種(保健師等/社会福祉士/主任介護支援専門員)の欠員期間(日数)【日数を記入】 ※年度末に報告する欠員期間(日数)を記入 ※欠員がなければ0を記入	保健師等 : (0)日 社会福祉士 : (0)日 主任介護支援専門員 : (151)日		
	イ. 「専門職総数」のうち「今年度新たに配属された専門職」の比率【比率(新たに配属された専門職/専門職総数)を記入】		40%	
	ウ. 専門職の当該地域包括支援センターでの平均勤続月数【月数を記入】 ※平成29年3月末現在の平均勤続月数を記入	平均 21.6 月		
	エ. 職員に対する職場内研修の開催回数【回数を記入】	7 回		
	オ. その他【任意・自由記入】	内部研修 ・9/6(五香松飛台版ガイドブック作成について)10/4(法改正) 11/4(喪失体験)12/6(消費者被害の心理)1/6(ノロ・インフルエンザ予防)2/3(自立支援プラン)3/7(次年度予定と強化項目) ・その他、毎月1回法人の内部研修参加		

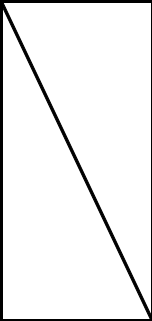
評価項目		回答欄	行政評価	主な好事例・課題	ヒアリング事項
②専門職間の連携を効果的に行っているか。		4	4		
評価の根拠	ア. すべての専門職の「連携活動評価尺度」の得点 【すべての専門職の得点を記入】 ※全国平均は24.5点 ※平成29年3月末現在在籍している全ての専門職について記入	①36点 ②33点 ③36点 ④40点 ⑤ ⑥ 平均 36.25 点			

3. 総合相談支援業務

評価項目	回答欄	行政評価	主な好事例・課題	ヒアリング事項
①相談内容の把握・分析を行っているか。	4	4		オ 夕方に毎日会議を開催。開催できない場合には、翌朝開催している。
評価の根拠 ア. 分類別の相談件数 (28年度1年間) a.本人又は親族への支援 【件数を記入】 b.本人又は親族以外の機関に 支援 【件数を記入】	a.本人又は親族への支援 介護に関する相談 1647件 健康・医療に関する相談 684件 経済的相談 123件 介護予防相談 284件 家族調整に関する相談 77件 権利擁護に関する相談 288件 諸制度に関する相談 132件 その他 349件 総計 3584件 b.本人又は親族以外の機関に支援 介護に関する相談 2404件 健康・医療に関する相談 929件 経済的相談 234件 介護予防相談 162件 家族調整に関する相談 183件 権利擁護に関する相談 523件 諸制度に関する相談 133件 その他 620件 総計 5188件			

評価項目		回答欄	行政評価	主な好事例・課題	ヒアリング事項
評価の根拠	イ. 他のセンターと比較した分類別の相談件数の特性と、当該センターにおける相談内容の主な特徴の検討結果【自由記入】 ※直近の介護保険運営協議会資料を参照して比較検討	・市内高齢化率は11包括中4番目15包括でも5番目と高い。圏域内に巨大団地やマンション群は少ない為戸建の方での高齢化率が高いのが特徴。介護に関する相談が約半数を占めているが、近隣の居宅介護支援事業所との連携に力を入れどんな些細な事でも連絡し後方支援するよう心掛けている。また、ケアマネ会(年2回)多職種ネットワーク会(年3回)を開催し事ある毎にケアマネとの連携の重要性を話している事もあり地域の居宅介護支援事業所との関係は良好であると感じている。 ・高齢者虐待の対応件数は16件と市内でも多い方である。基本的に連絡が入ったら全ての業務を中止、対応を協議しチームを組んで24時間以内の対応を心がけている。			
	ウ. 全ての相談事例について相談受付表を作成し、緊急性を判断している/いない	いる			
	エ. 主担当職員が不在の場合でも対応できるように職員間で共有できる記録の管理を行っている/いない	いる			
	オ. その他【任意・自由記入】	虐待案件や緊急性の高い案件は都度協議している。その他の案件も毎日夕方相談内容の会議を開き専門職間の情報の共有を行っている。 全ケースのケース会議も月1回開催。			

評価項目	回答欄	行政評価	主な好事例・課題	ヒアリング事項
②相談事例の解決のために、進捗管理や他分野との連携等、必要な対応を行っているか。	4	4		
ア. 解決困難な相談事例を分類し、進捗管理を定期的に行っている／いない	いる	/		
イ. 専門的・継続的な関与又は緊急の対応が必要と判断した場合であって、市へ報告した相談事例(最も解決困難だった1事例)の概要及び対応内容【自由記入】	夫婦世帯。H28年12月下旬の早朝に本人が転倒、救急車を呼ぼうとしたが本人は拒否。その後、冷たくなっていることを確認したが、年末でもあり配偶者はそのままにしていた。年が明け近所の方に相談し通報。警察が介入。高齢者支援課より実態把握の依頼を受け緊急訪問。家は電気・ガスが止められている状態で蠟燭で暮らしていた。その後、電気復旧、年金受給手続き、税金、保険料の未納分支払いなど各種手続きを支援し、病院受診に同行した結果、心不全にて入院となり、退院後施設入所となった。			
ウ. 障害者支援機関と連携して対応した相談事例(最も解決困難だった1事例)の概要及び対応内容【自由記入】	同居の子が親に対し身体・心理・経済的虐待を繰り返し、関係機関にも親の事に関して攻撃を行っていたケース。親がショート中、子が「帰ってくるな」と発言し親も「帰りたくない」と発言したので親をショートステイに分離。後見人を立ててその後特養入所となる。子から親の居場所やアパート代の請求等の攻撃が関係機関にある。子に障がい者支援機関を紹介し引っ越しや日常生活の支援を行い信頼関係が築けると徐々に関係機関への攻撃が無くなる。障がい者支援機関とは親が特養に入所するまでの約10か月間都度電話連絡を行い5回の会議に参加して頂き親子全体の情報共有を図る。その過程において自己破産申請を行い経済的不安も無くなった事もあり落ち着いて生活されている。			
エ. 介護家族からの相談事例(最も解決困難だった1事例)の概要及び対応内容【自由記入】	地域住民の方から、近隣の方の相談を受け関わりを開始。寝たきりの本人の介護が適切にされていない状態であり、虐待判断となる。介護者の配偶者は思いつきで行動し、医師の指示を守らず自己判断で介護。制度や介護方法を説明しても理解せず学習障がいと思われるような状態であった。通常の介入方法では対処できず、近隣の方に協力いただき、市の担当にもカンファ参加等尽力いただく。本人は肺炎で入退院を繰り返し病院で死去。			

評価項目	回答欄	行政評価	主な好事例・課題	ヒアリング事項
オ. 介護と仕事の両立支援など、子育て部門と連携して対応した相談事例(最も解決困難だった1事例)の概要及び対応内容【自由記入】	ケアマネからの通報。介護度が要介護4から5になったため、介護保険サービス利用料金が高くなったことから、「死んでくれ」「介護度5になりお金が増えた」などと言われた。本人は40歳代であり、配偶者も50歳代で生計のため仕事をしている。子供は2人おり、大学生。介護に子供たちの協力があまり得られない為、配偶者が家事と介護を行っている。本人との面談にて「叩かれる」との発言があり。ケアマネと利用している事業所と共に虐待疑いとして再度本人と面談、別で配偶者とも面談を繰り返し分離も含めて検討対応中。			
カ. その他【任意・自由記入】	虐待事案や支援困難事例は本人だけでなくその家族を含めた支援が重要になる事が多い。医療や介護保険制度だけでなくほっとねっとや司法、行政等と連携しチームとして対応している。			

評価項目	回答欄	行政評価	主な好事例・課題	ヒアリング事項
③地域における関係機関のネットワークの構築を行っているか。	4	4		
ア. 地域(圏域内・外)のネットワークの構成員や組織、関係性等の情報をマップやリストで管理している/いない	いる			
イ. 職員が依頼に基づき参加した関係機関・組織における全ての会議・行事等(※)の日程・テーマ 【日程・テーマを記入】 ※①関係機関・地域の町会等による住民等向けイベント(テーマ記入不要)、②関係機関等の関係者・専門職向け会議・イベント、③地域密着型サービス事業者の運営推進会議に大別して記載(地域ケア会議や医療関係者とのカンファレンスなどを除く)	(地区社協・町会等会議) 北丘地域福祉ネットワーク(4/15・8/10) 地区社協主催ふれあい会食会(6/4・11/25・11/26・12/16・1/20) 地区社協主催にこにこサロン(9/16・9/17・2/17) 地区社協主催グランドゴルフ大会(9/3) 地区社協主催ふれあい広場(11/20) 地区社協評議委員会(2/4) 松飛台連合町会会議(6/11・9/25) 松飛台祭り(10/16) 五香西地区三者懇談会(4/20・8/24・12/21) 五香地区二者懇談会(3/27) ひまわりの丘主催地域作り懇談会(5/22・8/28・10/23) 御立場南自治会会議(9/18) 松飛台中部自治会会議(3/18) (依頼された介護予防教室・講演) 松飛台北町会「口腔ケアの意義と方法」(5/28) 大同町会「在宅での看取り介護」(7/25) 香新クラブ「認知症について」(9/23) 松飛台連合町会「在宅での看取り介護」(9/25) サルビアサロン「脳トレ」(10/24) 平和湯講演(10/7:在宅での看取り介護・11/4:消費者被害) (専門職向け会議) 多職種ネットワーク会 第一回「病院発信:多職種多機関連携のこつ」(7/22) 第二回「QOL向上を目指した多職種カンファレンス」(11/18) 第三回「多職種と歩み寄る」(3/17) 五香松飛台ケアマネ研究会 第一回「地域包括支援センターの役割とケアマネとの連携」(6/15) 第二回「自立支援型ケアプラン作成について」(1/18) オレンジ協力員交流会(2/23)			
評価の根拠				

評価項目		回答欄	行政評価	主な好事例・課題	ヒアリング事項
評価の根拠		(運営推進会議) たんぽぽグループホーム(5/11・9/14・11/9・3/8) あじさいグループホーム(5/21・7/23・9/24・11/19・3/18) コーサングループホーム(5/27・7/22・9/23・11/25・3/24) 小規模多機能 だんらんの家(3/3) きずな(3/6) きらくの家(3/29)			
	ウ. 個人の有するネットワークを 専門職で共有している／いない	いる			
エ. その他【任意・自由記入】	・各専門職が把握した地域の情報等は会議等で話し合い随時地区内のリストに追加している。 ・ネットワークの構築が偏らないよう社協主催の集まりや運営推進会議等は相談職員が交代で出席している。				

評価項目	回答欄	行政評価	主な好事例・課題	ヒアリング事項
④地域の社会資源について把握を行っているか。	4	4	カ 相談、予防に関わらず、包括全員が、「市民センター」＝「市民の活動の場」である共通認識をもとに、その活動を重視している。最新の活動状況を収集するために定期訪問し、関係づくりもおこなっている。	ア 圏域内:いとうさん・ち、元山ガンバ、サルビアサロン等 圏域外:セブンイレブン、1000円以上購入すれば、宅配をしてくれるお店等 オ 夕方に毎日会議を開催。開催できない場合には、翌朝開催している。
評価の根拠	ア. 高齢者支援等を行う介護保険外サービス(※)を行う地域(圏域内・外)の社会資源のうち、センターと連携や交流の実績がある資源の数(○ヶ所)【ヶ所数を記入】 ※配食、見守り、移送、サロン、地域の予防活動等	圏域内 23ヶ所 圏域外 19ヶ所		
	イ. アの地域の社会資源を開発するためにやっている方策【自由記入】	地域ケア会議の中で課題を抽出し、具体的に取り組みにつながるよう地域住民、専門職で検討している。(巡回バス等)また高支連や町会の集まり等へ積極的に参加し、地域の困りごとの把握や地域活動への参加を呼びかけている。その結果として、地域内のサロンスペースでのボランティア協力者を確保できた。		
	ウ. 地域の社会資源やその情報の収集方法【自由記入】	各町会の会合や地域の集まり、地域のイベント(お祭り)等へ土日間わず積極的に参加することで地域住民との交流を図っている。それにより社会資源に限らず、地域で起きていることの情報センターに入るようになってきている。受け身ではなく、積極的に地域に出ていくという姿勢を大切にしながら、地域住民と顔の見える関係をつくることを心がけている。		
	エ. 地域の社会資源に関するマップやリストを作成している／いない	いる		
	オ. 地域の社会資源に関するマップやリストを逐次見直している／いない	いる		
	カ. その他【任意・自由記入】	相談担当と予防担当が協力して役割分担をしながら、地域の体操教室などの活動にできるだけ参加し、市民センター等に定期訪問することで、最新の情報を把握するように努めている。地域の集まりの場に呼んでいただき、包括の役割や認知症・介護予防などの講演をする機会も増えている。		

4. 権利擁護業務

評価項目		回答欄	行政評価	主な好事例・課題	ヒアリング事項
①成年後見制度や日常生活自立支援事業(社協)の活用を促進しているか。		4	3		イ 粘り強く親族を探するなど、できる限り、本人、親族自身が申立できるよう支援している。申立費用助成の制度があることで、支援の幅が広がった。
評価の根拠	ア. 成年後見制度や日常生活自立支援事業を利用する必要がある者の把握方法【自由記入】	電話や来所の相談はもちろん、民生委員・相談協力員・地域住民・ケアマネ等からの情報収集を行い、権利擁護の必要性を都度専門職で検討している。			
	イ. 成年後見制度活用につなげたケース数について、他のセンターとの比較等を通じた当該センターの特性の分析と今後の対応策の検討結果【自由記入】 ※介護保険運営協議会資料を参照して比較検討	【特性】 他包括と比べると件数等に大きな差異はない。 【今後の対応策】 H28年度成年後見制度についての講演(司法書士が講師)を地域住民に行った際、非常に好評で継続して欲しいとの要望がある為、機会を設け普及活動を継続していく。			
	ウ. 日常生活自立支援事業につなげたケース数について、他のセンターとの比較等を通じた当該センターの特性の分析と今後の対応策の検討結果【自由記入】 ※介護保険運営協議会資料等を参照して比較検討	【特性】 年間を通して2件相談したが、事業開始までに時間がかかる事もあり実績ベースでは0件。他包括と比べても大きな差異は無い。 【今後の対応策】 ・制度利用の必要性を常に意識し、市社協担当者と円滑な連携体制を取り良く制度を理解する事が重要。 ・ケアマネと良好な関係を築き制度利用が必要な方の把握に努める。			
	エ. その他【任意・自由記入】	・H29年度もケアマネ会や多職種ネットワーク会等で専門職向けや地域住民向けの「権利擁護」研修会を開催し普及啓発活動に努める。 ・職員のスキルアップも図り「市町村行政・福祉関係者向け成年後見制度研修会」(12/1)参加			

評価項目		回答欄	行政評価	主な好事例・課題	ヒアリング事項
②関係機関と連携しつつ、高齢者虐待事例に対して適切かつ迅速に対応しているか。		4	3		
評価の根拠	ア. センター自身が警察や法律家と連携して対応した高齢者虐待事例の件数(28年度1年間)【件数を記入】	4 件			
	イ. 職員が、虐待事例に関する緊急時に連携できる介護施設・医療機関等の各種施設の連絡先を携帯している／いない	いる			
	ウ. 通報を受け48時間(24時間)以内に安全確認や必要な対応を行った事例の概要と対応内容(1事例)	配偶者が他界したことにより前配偶者の子と遺産トラブルになり、本人が経営する会社の遺産についての話し合いの際に暴力(携帯で頭頂部を数回殴る)を振るい怪我をさせた。警察に通報し高齢者支援課から包括に連絡が入り本人へ電話。すぐに本人の会社へ訪問し事実確認を行う。本人の外傷はすでに軽快していた。虐待者は警察に逮捕され精神科病院に入院する予定。入院先が決まったら主治医と面談をし、今までの行動やエピソードを情報提供しよう助言。また、自宅も引っ越しを提案。警備会社とは契約をしたとのことにて、駆けつける所要時間等確認しておくよう助言する。			
	エ. その他【任意・自由記入】	虐待及び虐待疑いのケースは通報が入り次第、内容による専門職の人選をした上で早期対応を行う。残った専門職も関係機関から情報収集等を行い多角的な見地からチームとして介入する。			

評価項目	回答欄	行政評価	主な好事例・課題	ヒアリング事項
③消費者被害の防止や権利擁護に関する啓発に関する取組を行っているか。	3	4		
評価の根拠	ア. 松戸市消費生活センター(又は松戸市消費生活課)との定期的な情報交換の方策及び頻度【自由記入】	<p>消費者センターに電話(10回程)または訪問(5回)した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護予防教室等で講義に使用する啓発用パンフレットの準備、増刷の希望をだしたり 在庫確認で連絡相談 ・配布資料の選定のアドバイスを受けた ・地域住民への説明に際しての疑問点や注意点の指導を受けた ・市のホームページや国民生活センター等の情報は随時確認した。 	/	
	イ. 消費者被害防止のための民生委員・介護支援専門員・訪問介護員等への情報提供等の実施方策及び頻度【自由記入】	<ul style="list-style-type: none"> ・ケアマネ会に於いて 消費者被害の防止チラシを配布し注意喚起 ・住民向け教室にスタッフとして参加している民生委員、町会役員に松戸市消費生活センターの悪徳商法被害防止パンフレットを配布 ・地域ケア会議の場で参加者(町会役員、民生員、介護事業所等)に千葉県消費者センター作成の見守りガイドブックを配布。 		
	ウ. センターが開催した権利擁護に関する全ての住民向け講演会の日程・内容・主な参加者層・参加者数【日程・内容・主な参加者層・参加者数を記入】	<p>28.11.10 ふれあい22で開催 常盤平・六実六高台地域包括支援センターと合同 松戸市高齢者虐待防止ネットワーク市民向け講演会 「がんばらない介護」の題で病院代表理事の講演と 2部でパネルディスカッションを行った。 常盤平管内の住民や介護保険事業所・市社協他市内在住市民 77名参加</p>		
	エ. その他【任意・自由記入】	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症予防教室や講演会等の依頼を受けた際に 必ず消費者被害防止の話をさせていただき、啓発パンフレットの配布をした ・介護予防教室の体操教室時に啓発チラシの配布と説明をした ・相談職員がH28年千葉県消費生活講座(法令コース/3日間)受講 ・28/11・4 松戸市公衆浴場組合平和湯にて「消費者被害防止」の講演を行う。15名参加。 		

5. 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務

評価項目	回答欄	行政評価	主な好事例・課題	ヒアリング事項
①地域の介護支援専門員に対して、日常的指導・相談を効果的に行っているか。	4	4	オ 依頼に基づき、一人ケアマネに対し、同行訪問を複数回おこない、丁寧に支援し、質的向上に繋げている。また、包括から依頼した事例については、基本的にはケアマネに同行し、円滑な引継ぎに努めている。	
ア. 28年度1年間における地域の介護支援専門員からの相談件数【件数を記入】	1,455件			
イ. 「28年度1年間における地域の介護支援専門員から受けた相談のうち最も困難な相談事例(1事例)」の概要及び対応内容【自由記入】	配偶者の死が迫った時期から精神的に不安定となり、本人に自殺企図が見られたことから担当ケアマネから介入の依頼を受ける。配偶者の死後により相続に関して本人と子との間で争いが起き、話し合いの場にケアマネと共に同席するが、その場で突然子が本人に対して殴りかかり、間に入った職員が子に蹴られる事態となった。自宅玄関の鍵を交換したり、分離について助言するが共依存の関係で進まず、現在も支援は継続している。			
ウ. 28年度1年間における「地域の介護支援専門員を対象にした研修会・事例検討会」の開催回数【回数を記入】	5回			

評価の根拠

エ. 28年度1年間における「地域の介護支援専門員を対象にした研修会・事例検討会」の日程・内容・講師
【日程・内容・講師を記入】

- ①平成28年6月15日(水)13:30～15:30
平成28年度第1回五香松飛台地域ケアマネジャー研究会
内容 講演
「地域包括支援センターの役割とケアマネジャーとの連携」
グループワーク
「ケアマネジャーと地域包括支援センターの連携について」
講師 高齢者支援課
- ②平成28年7月22日(金)18:30～20:30
平成28年度第1回五香松飛台地区多職種ネットワーク研修会
内容 講演
「病院発信:多職種多機関連携のこつ
～顔のみえる関係から顔の向こうがみえる関係へ～」
講師 東松戸病院 職員
- ③平成28年11月18日(金)18:30～20:30
平成28年度第2回五香松飛台地区多職種ネットワーク研修会
内容 事例検討、グループワーク
「QOL向上を目指した多職種カンファレンス
～動画で気づく&築く～」
講師 五香病院リハビリ科
- ④平成29年1月18日(水)13:30～15:30
平成28年度第2回五香松飛台地域ケアマネジャー研究会
内容 講演
「生活困窮者自立支援制度について」
講師 松戸市役所生活支援1課
「自立支援型ケアプランの作成について」
講師 五香松飛台地域包括支援センター
- ⑤平成29年3月17日(金)18:30～20:30
平成28年度第3回五香松飛台地区多職種ネットワーク研修会
内容 グループワーク
「多職種と歩み寄る～ディベートから学ぶ～」
講師 五香松飛台地域包括支援センター

オ. その他【任意・自由記入】

・平成27年度の相談支援件数が1206件であり、前年より249件増となっている。
・地区内の新人ケアマネにアセスメントやケアプラン立案方法等を初回同行から一緒に行う。

評価項目	回答欄	行政評価	主な好事例・課題	ヒアリング事項
②地域の介護支援専門員に対して、支援困難事例等への個別指導・助言を効果的に行っているか。	4	4		
評価の根拠	ア. 同行訪問による個別指導・助言の件数(28年度1年間) 【件数を記入】 ※サービス担当者会議への出席は同行訪問に含めないものとする。	148件		
	イ. アのうち、最も支援困難な事例(1事例)の概要及び個別指導・助言の内容【自由記入】	H27年度からの虐待案件で包括から連絡できず虐待者と会えないケース。虐待者の配偶者の兄弟が隣に住んでおり介護申請をする事になる。ケアマネ選定を行い虐待事情を説明し共に介入。本人と会う事ができる。介入し配偶者との関係構築を図っていたが本人が兄弟の会議時同席した際包括職員の名前を呼ぶ(本人と包括職員は初対面の設定)これに配偶者が反応し不信感を抱く。少し距離を取った時期もあったが、ケアマネとの連携を図り助言・指導を重ね配偶者とケアマネとの関係は良好となった事で再び包括も介入した。現在支援継続中だが、関係は以前より良好となる。		
	ウ. サービス担当者会議への出席による指導・助言の件数(28年度1年間)【件数を記入】	65件		
	エ. ウのうち、最も支援困難な事例(1事例)の概要及び指導・助言の内容【自由記入】	配偶者の介護への理解力不足で誤嚥で入院。施設入所を提案するが 配偶者が強硬に退院希望し退院となった。この時ケアマネが交代となる。包括主導で担当者会議を調整し、ケアマネ・訪問看護責任者・医療相談員・配偶者・市職員・地域住民を集め病院内で会議を開催。訪問介護での調理も含めたサービスとなるにあたり「同居家族のいる家事援助」では無く「特別な配慮の必要な調理」=身体介護 での算定の為に必要な条件を確認、医師からの指示書、食事箋の手配を包括側で病院に依頼し、ケアマネに伝達。		
	オ. その他【任意・自由記入】	・平成27年度同行訪問件数56件、サービス担当者会議出席件数84件となっており、今年度はどちらも大きく上回る実績をあげることができた。 ・ケアマネに依頼したケースはほぼ初回時同行訪問を行い、関係構築に努めている。		

6. 地域ケア会議関係業務

評価項目		回答欄	行政評価	主な好事例・課題	ヒアリング事項
①地域ケア会議の開催を通じて、地域の課題を把握しているか。		4	3		
評価の根拠	ア. 地域包括ケア推進会議・地域個別ケア会議の開催に当たって、関係機関等の意見を聴取した上で、議題とする事例やテーマを選定している／いない	いる			
	イ. アが「いる」の場合、その具体的方策【自由記入】	・推進会議において検討したいテーマや意見を伺い反映している。			
	ウ. 議題とする事例やテーマにあわせて、地域ケア会議の参加者を決定している／いない	いる			
	エ. ウが「いる」の場合に、当該地域個別ケア会議の事例と参加した医療・介護関係者以外の関係者の職種【職種を記入】	【事例】 認知症の高齢者夫婦(子無し)への対応方法 【職種】 町会長・自治会長・民生委員・高支連・地区社協役員・市社協地区担当者小学校校長・住民ボランティア(サロン等関係者)			
	オ. 地域包括ケア推進会議・地域個別ケア会議の議論内容(議事録)を参加者間で共有している／いない	いる			
	オ. その他【任意・自由記入】	・地区内6班の各班単位で個別会議を行い、多くの方(毎回出席者が変更)に地域包括ケアシステムの重要性を啓発している。 ・各会議の議事録を前期分・後期分に分け全ての参加者に送付し情報の共有を行う。 ・他包括が行う地域ケア会議に見学に行き、勉強させて頂いた(明1:9/21・明2:9/21・常盤平:2/16) ・H29年度は地区内の中学校校長が参加予定。			

評価項目		回答欄	行政評価	主な好事例・課題	ヒアリング事項
②3層構造の地域ケア会議の連携を通じて、地域の課題解決を図っているか。		4	2		
評価の根拠	ア. 地域個別ケア会議の個別事例から課題を抽出し、地域包括ケア推進会議での議題にあげている事例(2事例)【自由記入】	歩いて通える医療機関が少ない課題に対して地区内約200名の方からアンケートをとり、かかりつけ医・受診頻度・受診方法・無料送迎バスのニーズ等を把握し具体的な方策へ繋げる。			
		独居高齢者や男性高齢者の余暇教室が少ないのと、何処に何があるか分からないとの意見を参考に、地区内の社会資源・介護事業所・医療関係のマップを作成する事になる。			
	イ. 地域包括ケア推進会議で抽出された課題をまとめて、市の定める期限・様式に従って、市に報告している／いない	いる			
	ウ. 市の地域ケア会議での決定事項を、地域包括ケア推進会議で報告している／いない	いる			
	エ. その他【任意・自由記入】	H27年度から3か年計画とし「地域診断表」「アンケート集計」「向こう3軒両隣」の普及啓発活動等を行い、H29年度は地域の課題解決として結果を残す地域ケア会議になるよう努める。			

7. 在宅医療・介護連携推進業務

評価項目		回答欄	行政評価	主な好事例・課題	ヒアリング事項
①医療機関との緊密な連携を行っているか。		4	4	<p>エ 月一回、地域サポート医とカンファレンスを開催し、その記録も整備している。包括からは、受診に繋がった人の相談、サポート医からは、受診時に気になるケースについて、情報交換をおこなっている。また、個別ケースだけではなく、地域の特性等についても話し合いをしている。</p>	
評価の根拠	ア. 在宅医療を行う医療機関と緊密に連携して対応した事例(2事例)の概要【自由記入】	<p>抗がん剤治療を経て在宅となり相談が入る。退院と同時に都内の病院から近医に変更したが、痛みのコントロール不良が有る中、紹介先の病院との初期連携が上手く行かず訪看の指示も出してもらえない等支援導入が困難であった。包括が元の主治医や訪問診療の先生との間に入り調整し、適切な指示と対応で早期に初回診察や訪問看護導入となった。</p> <p>脳出血後、施設へ入居したが虐待を理由に在宅へ戻った要支援2の方。在宅の環境が悪く一人での外出が困難なため訪問診療を導入。右下肢機能全廃の為段差の多いアパートでは転倒を繰り返し、他者とのコミュニケーションでは精神的な不安定さを繰り返す。環境を整え障がいサービスで外出支援、介護保険で通所など試みるが拒否があり断念。訪問診療を心療内科に変更すると信頼関係が構築され、少しずつ脳出血直後の記憶を、訪問診療の看護師等に話ができるようになってきており経過観察中。</p>			
	イ. 外来診療を行う医療機関と緊密に連携して対応した事例(2事例)の概要【自由記入】	<p>車で道に迷うようになり介護保険申請された80代。病識がなく車の運転をやめない。仕事も家計の為に続けている。しかし掃除をしてほしいとの希望があり介入すると、「ヘルパーにお金を盗られた」と、物とられ妄想が始まる。その後も仕事の書類、通帳、鍵を盗られたと訴えが続き、交番、警察署、市役所、包括へと車で行き被害を訴える。キーパーソンの子1はパニック障がい、鬱の治療中。配偶者とは30年以上前から別居。子2を含め家族関係は悪い。子1のみ協力ができ本人も頼っていることから、定期通院に同行。通院間隔を短くっていただきながら、まずは免許返納、仕事を辞めることの支援を行う。主治医からも診察時間を多くとり繰り返し本人に説明をしてください。その間、親族申し立てで成年後見制度に繋ぐ。介護保険の変更申請をかけ、子1の精神面をフォローしながら、半年かけ免許返納ができ、仕事も辞めることができた。</p> <p>70代。近所を徘徊し、近隣の住宅に入ろうとする、隣人を待ち伏せする、卑猥な言葉をかける、大声で怒鳴る、子供たちを追いかけるなどの行動あり。認知症初期集中支援チームに介入を依頼し、精神科病院への受診同行を5回行い、都度主治医とムンテラを行い連携を図った。また、近隣住民や町会長・民生委員等を集め情報収集や対応の説明などトラブルを回避するための会議を行い見守り体制の強化を図った。現在精神科医療機関に入院中。</p>			

評価項目		回答欄	行政評価	主な好事例・課題	ヒアリング事項
評価の根拠	ウ. 入院医療機関と緊密に連携して対応した事例(2事例)の概要【自由記入】	90代。退院後より毎日通っていたスポーツジムに行く事ができなくなり、筋力の低下と両下肢の浮腫も出現し歩行が不安定となったため、総合事業対象としてデイサービス利用開始。利用開始後徐々に体調が悪化し、入院する。入院中に病状確認・リハビリの機能回復状態・介護保険申請等の検討をするため各関係機関と13回面談。歯科医師とも連携を図り対応にあたる。予後として以前のような状態への回復は認められないとの診断にてMSWと相談し、介護保険申請、病床にて認定調査の立ち会い、看護師やPTからも情報収集をする。結果、要介護となり居宅ケアマネに引き継いだ。			
		50代。パーキンソン病により介護保険2号被保険者として認定を受けている。盗聴や盗撮されているなど強い被害妄想、幻覚症状あり、かかりつけの医療機関と連携し対応していたが、28年12月上旬自宅で本人が倒れて動けなくなっているところを家族が発見、救急搬送の要請する。搬送先の病院について、主治医である心療内科と紹介先である精神科医がともに受け入れを拒否。両医療機関と何度も連絡を取り合い調整を図るもどちらも受け入れを表明せず、結果他の医療機関に搬送となった。その後在宅生活は困難とのことで、施設入所の方向で進んでいる。			
	エ. その他【任意・自由記入】	・毎月第一金曜日に地域サポート医とカンファレンスを行う時間を持ち医師から相談のあった患者の報告や相談をする場としている。また、医師から外来中でも気になる患者の相談があり、訪問等対応している。 医師と情報交換をしている件数:78件(延べ人数) ・近隣の医療機関から電話やメール等での問い合わせがありH28年度は41件の実績がある。			

評価項目	回答欄	行政評価	主な好事例・課題	ヒアリング事項
②医療関係者とのネットワークを活用して、地域における医療的な課題の解決を図っているか。	4	4	五香松飛台地区における全ての医療関係機関・介護事業所等に就いている全ての職種の方を対象に、医療機関と包括の共催で「多職種ネットワーク研修会」を開催している。	
評価の根拠	ア. 地域サポート医(在宅医療・介護相談窓口)へ相談を行った件数(28年度1年間)【件数を記入】※相談支援件数・アウトリーチ件数・合計を記入	相談支援件数 2 件 アウトリーチ件数 0 件 合計 2 件		
	イ. 地域サポート医との連携により、地域における医療的な課題に対応した事例(2事例)の概要【自由記入】	外来担当医から電話で介護保険拒否の方の訪問依頼あり。介護保険申請の説明のため訪問。介護保険の申請は出来たがサービス利用に拒否あり。繰り返し訪問し介護保険サービス利用を促していく中で物取られ妄想の悪化、幻聴の症状が出現。担当医と頻回に連絡を取り訪問時の状況を伝え服薬調整等の対応を行う。医師・ケアマネ・包括と連携しサービス利用に繋がる。		
	ウ. 医療関係者とのネットワークを構築するために進めている具体的な方策【自由記入】	家族から相談を受ける。半年前まで歩いていたが、転倒をきっかけに歩けなくなってしまった。日中独居で自力でトイレに行けずオムツをあてている。病院にはかかっていないとのことで、地域サポート医へ連絡し受診予約、介護申請を行い、その後ケアマネ紹介し介護保険サービス導入となった。		
	多職種ネットワーク研修会 ※五香松飛台地区における全ての医療関係機関・介護事業所等に就いている全ての職種の方が対象。 第1回 H28.7.22 :「病院発信:多職種多機関連携のこつ?～顔の見える関係から顔の向こうが見える関係へ～」 第2回 H28.11.18 :「QOL向上を目指した多職種カンファレンス～動画で気づく&築く～」 第3回 H29.3.17 :「多職種と歩み寄る～ディベートから学ぶ～」 ※述べ医療関係出席者:82名			

評価項目		回答欄	行政評価	主な好事例・課題	ヒアリング事項
評価の根拠	エ. 医療関係者と合同で参加した全てのカンファレンス・研修の日程・テーマ【日程・テーマを記入】	認知症疾患センター研修(7/12・1/17) MSW、ケアマネ交流会(3/22) 在宅医療、介護連携相談窓口プロジェクト事例検討会(3/27) 在宅医療、介護連携相談窓口プロジェクト介護事故に関する研修(2/9) 認知症地域推進委員研修会(8/8・8/9) 認知症コーディネーターフォローアップ研修(6/16・10/20) 専門職向け認知症関連研修会(2/23) 認知症サポート医フォローアップ研修(3/9) 松戸認知症プロジェクト研修(3/6) 精神科医療研究会(7/2・12/5・3/6)			
	オ. その他【任意・自由記入】	<ul style="list-style-type: none"> ・松飛台地区は市内医療圏域最下位の地区である為、サポート医との連携はもちろんだが、地域ケア会議や医師会等主催の研修に積極的に参加し意見交換ができるよう心掛けている。 ・多職種ネットワーク研修会は医療機関と共催の形で行っている為、ネットワーク会議を行う為の会議として計10回の打合せの時間を設ける。 ・毎月第一金曜日に地域サポート医とカンファレンスを行う時間を持ち医師から相談のあった患者の報告や相談をする場としている。また、医師から外来中でも気になる患者の相談があり、訪問等対応している。 医師と情報交換をしている件数:78件(延べ人数)			

8. 認知症高齢者支援

評価項目		回答欄	行政評価	主な好事例・課題	ヒアリング事項
①認知症の早期把握・早期対応を推進しているか。		4	4		
評価の根拠	ア. 認知症初期集中支援チームにつないだ事例の件数(28年度1年間)【件数を記入】	2 件			
	イ. 認知症初期集中支援チームにつないだ事例(1事例)の概要・センターの対応内容・チームとの連携内容【自由記入】	民生委員から相談を受けたケース。徘徊時に卑猥な言動等迷惑行為が有る方。通所利用が軌道にのらずサービス停止していた。コーディネーターと連携を取り、精神科受診同行等行い、訪看開始。 その後 向かいの家に習い事に来た親子を威嚇した事でトラブルとなり、家族希望の元 精神科に入院となった。			
	ウ. DASCを活用した認知症についてのアセスメントを実施し、継続支援につながった件数(28年度1年間)【件数を記入】	5 件			
	エ. DASCを活用してアセスメントを行った事例(1事例)におけるケアマネジメントの内容と実際に行われた医療機関受診・サービス利用・セルフケアの内容【自由記入】	・事業対象者として通所利用を続けていたが利用者間の交流機会が少なく 他の事業所見学を勧め変更した。 ・定期受診を2つの医療機関の他、近医(認知症対応医療機関)にもしていたが認知症診断には至っておらず、何度も検査を勧めた結果、ようやく、検査予約するに至った。 ・セルフケアは意欲低下が顕著となっていて本人拒否。継続支援している。			
	オ. その他【任意・自由記入】	松戸市作成の認知症ケアパス検討会に初回から参加し リニューアルのための意見交換にも継続参加している。 相談者の中で認知症初期と思われる方の家族にケアパス利用し認知症の症状等説明している			

評価項目	回答欄	行政評価	主な好事例・課題	ヒアリング事項
②認知症高齢者に対する地域での支援基盤を構築しているか。	3	4		ア 交流会の開催と認知予防教室の準備、受付、指導等の実践活動をしている。
ア. オレンジ協力員による「専門職と協力しながらの実践活動」の実施件数(28年度1年間)【件数を記入】	32件			
イ. アのうち、最も難易度の高いと考えられる実践活動(1事例)の内容【自由記入】	認知症予防教室(全3回)で 7名の方から協力の承諾があり、全員に協力して頂ける様 折り紙指導のサポート役を割り当て、事前説明の時間を持った。 当日その場で出来る、受付の様な手伝い程度と思っていた人が多く、こちらの思惑と相違があり 指導に難儀した。 受付程度の簡単な手伝いは 必要な人数も少ない。開催側で手が足りる内容を敢えて割り当てるしかなく 活用するには工夫が必要であった。			
ウ. センターが開催した全ての認知症サポーター養成講座の日程、主な参加者層及び参加者数【日程・主な参加者層・参加者数を記入】	①日程 平成28年5月22日(日) 参加者層 まきば声掛けネットに参加する地域住民 参加者数 57名 ②日程 平成28年7月12日(火) 参加者層 有料老人ホームナーシングヴィラそよ風スタッフ 参加者数 33名 ③日程 平成28年9月2日(金) 参加者層 東洋証券職員 参加者数 14名 ④日程 平成28年9月24日(土) 参加者層 グループホームあじさい入所者家族、地域住民 参加者数 38名 ⑤日程 平成29年3月3日(金) 参加者層 常盤平保健福祉センター 松戸市健康推進員 参加者数 18名			
エ. 認知症ケアパスの普及啓発のために行っている具体的方策【自由記入】	相談者に対して認知症を説明するツールとして認知症ケアパスを使用した説明を行っている。また、地域ケア会議や地域の集まりに参加した際には積極的に配布している。			

評価の根拠

オ. その他【任意・自由記入】	・H27年度の認知症予防教室にて「カメラ教室」を開催。その後3回程自主活動に至ったが活動停止。H28年度に常盤平包括が「カメラ教室」を行った事もあり、共催で「カメラ教室」を2/3・2/23に開催し自主活動に繋げる為支援中。	/		
-----------------	---	---	--	--

9. 介護予防ケアマネジメント業務、介護予防支援関係業務

評価項目	回答欄	行政評価	主な好事例・課題	ヒアリング事項		
①自立支援に向けたケアマネジメントを行っているか。	4	3	ウ 自立支援型ケアマネジメントの取り組みを地域のケアマネに向けても実践している。			
評価の根拠	ア. センターが行うケアマネジメントを通じて、住民主体のサービス、地域の予防活動等につないだ事例(2事例)の概要と対応内容【自由記入】	H25年に本人から相談、身体機能低下やもの忘れを心配されている方。生活は自立されている。しかし、制度を利用することに抵抗がありサービスに繋がらず。定期的に連絡を取り様子を見ていたが、H29年に入り通所Cに興味を示されたため訪問。チェックリストの運動機能は非該当であったが、認知機能は該当したため、通所型短期集中予防サービスを一緒に体験。好印象で現在も一人で通っている。	/			
	イ. センターが行うケアマネジメントを通じて、短期集中予防サービスなどにつなぎ、心身機能の改善につながった事例(2事例)の概要と対応内容【自由記入】	配偶者の担当だったケアマネにご本人よりデイを利用したいと相談。初回訪問に立ち会う。ケアマネは申請によるサービス利用が妥当との見解だったが、自立度がかなり高く必要性は低いと判断。地域のサロン、包括主催の体操教室等を紹介し、利用に繋がった。				/
	エ. センターが行うケアマネジメントを通じて、短期集中予防サービスなどにつなぎ、心身機能の改善につながった事例(2事例)の概要と対応内容【自由記入】	通所型サービスを利用されていた方を地域でセルフケアに取り組んでいただく支援をした方。デイ利用により状態が改善。ご本人ご家族同意の上で担当者会議開催。サービス事業所も卒業対象であると見込み、市民センターの体操教室へ参加してみることを目標。日時を合わせ共に体験。その後本人から「通ってみる」と連絡あり。精神的に前向きになり自信を取り戻され継続を希望されている。				
	ウ. 一般的なケースにおけるモニタリングの実施頻度と実施内容【実施頻度と実施内容を記入】	92歳で通所Cを卒業後、体操教室の継続を希望されたため、元気応援サービスを提案。ご本人は自転車では300mほど移動できるが、徒歩では50mも歩かない。自転車はいずれ乗らなくなることを考え、歩行器を使用してでも歩くことを優先。「歩行器を利用し地域の体操教室へ通う」ことを目標にしたところ、週に一回歩行器で元気応援サービスに通え、社会参加もでき機能改善できている。				/
	エ. その他【任意・自由記入】	【実施頻度】モニタリングは月1回。状態や生活状況等に変化が無ければ3ヶ月に1回の訪問。 【実施内容】総合事業が始まってからは、状態に変化のない方でも、地域でセルフケアの取り組みができる方に関しては、月に2回以上の訪問を繰り返し、説明とともにケアマネも地域の教室と一緒に参加したり見学に行くなどの支援が増えてきている。				
	より具体的な目標を利用者本人が意識するよう働きかけている。チェックリスト実施と制度の必要性の見極めをしながら、サービス事業所にも一緒に目標を考えて頂けるよう声をかけ続けたところ、相談に対し同じ目線で支援して下さる事業所が少しずつ増えてきて来ていると感じる。	/				

評価項目	回答欄	行政評価	主な好事例・課題	ヒアリング事項
②居宅介護支援事業者へのケアマネジメントの委託を適正に行っているか。	3	4		
評価の根拠	ア. ケアマネジメント業務の委託先選定時に公正・中立性を担保するためにしている具体的方法【自由記入】	居宅介護支援事業所一覧を確認し相談職員全員に委託先の選定に対しての意見を求めている 【選定時に勘案する内容】 要介護度 住所地 利用希望サービス 事業所の対応力 後方支援の必要性の有無 ケアマネの経験年数 受診先の病院 直近の委託先事業所ではないか等々を検討し公正・中立性を図る。		
	イ. 居宅介護支援事業者へ委託した場合の台帳及び進行管理が行われている／いない	いる		
	ウ. 居宅介護支援事業者へ委託したケアプランの達成状況の評価の確認を行っている／いない	いる		
	エ. 委託先の安定的な確保のために講じている具体的な方策【自由記入】	初回契約時には出来る限り同席し予防契約実施は包括側が行う困難なケースである時は地域住民(民生・相談協力員等)との橋渡し、担当者会議同席等 ケアマネの意向を重視しながら後方支援を行い信頼関係の構築を図る。		
	オ. その他【任意・自由記入】	ケアプランチェックに於いて事業所ごとに担当を設け更新の有無等管理している。サービス内容(生活援助の夫婦按分等)が不適切ではないかと思われるケースは 随時ケアマネに問いあわせし、アセスメント等の確認。必要であれば利用者宅に同行し適性化に努めている。		

10. 松戸市指定事業

評価項目		回答欄	行政評価	主な好事例・課題	ヒアリング事項
①松戸市指定事業を適切に実施しているか。		4	4		
評価の根拠	ア. センターが開催する介護予防教室(体操教室等)の参加総数(28年度1年間)及び最も参加者が多かった教室の日程・内容・主な参加者層・参加者数 【参加総数・日程・内容・主な参加者層・参加者数を記入】	【体操教室】 ○合計開催回数 21回 総参加数:586名 ○最多参加総数 46名 日程:平成29年2月2日 10:00~11:00 五香市民センター 内容:冬の特別講座 椅子に座ってタオル体操 主な参加者層:概ね65歳以上の男性、女性	/		
	イ. センターが開催する認知症予防教室の参加総数(28年度1年間)及び最も参加者が多かった教室の日程・内容・主な参加者層・参加者数【参加総数・日程・内容・主な参加者層・参加者数を記入】	○合計開催回数 5回 参加総数 33名(その他 オレンジ協力員 延べ13名) 【最も参加者が多かった】 ○最多参加総数 13名(その他オレンジ協力員 6名) 日程 28.11.22 13:30~ 内容 認知症予防講義 折り紙 脳トレ 消費者被害の実態 ボランティアの方法 参加者層 概ね60歳以上の女性			
	ウ. ボランティアの育成の具体的な実施方策【自由記入】	・社会福祉協議会でのボランティア参加の方法の他 特養等の施設で直接参加する方法を説明 ・教室の時間内に会場となった老人ホーム内にあるデイサービスへ教室で作った作品を持って慰問に行き雰囲気を感じてもらった ・教室終了後郵送で 社会福祉協議会のボランティア登録会の日程の案内を送付 ・いきトレ卒業者に対しボランティアのレクチャーを行い施設への紹介を行う。			
	エ. 申請代行業務(サービス利用の申請代行、住宅改修の助言・理由書作成等)の実施件数(28年度1年間)【件数を記入】	介護保険認定申請代行: 85件 住宅改修の助言・理由書作成: 50件 その他: (): 件 その他: (): 件			
	オ. 各種保健福祉サービス・介護サービスの普及啓発の具体的な実施方策【自由記入】	・各町会等の集まりや社協主催の集まりにおいては必ず地域包括支援センターの普及啓発活動を行う。また、質問等において各種保健・福祉・介護サービスの説明等を行う。H28年度30回実施。			